

江戸時代の暦學者

川谷^{クイ}薊山

水野千里

川谷^{クイ}薊山，通稱貞六，名は致眞^{ムネサネ}。

土佐の安藝郡野根村の人。薊野村薊山家を繼ぎ、元文三年(1738年)江戸に往き、豊島氏の門に入り、算盤元々演段の秘訣を受け、算學の蘊奥を極む。暦學に於ては當時藩中無双と稱せらる。

七政曆を考定し、以爲く「寶歷十三年(1763年)九月朔日日食あり」と、然るに官曆之を載せず。京都より來れる一商人にこれを談ぜしに、その商人三條家に報告せり。因て三條家より曆術家土御門家に諮問せられしに、なしと答ふ。三條家よりの奏問により、禁中にては萬一の場合を考慮し、その用意をなせり。さて其の日愈々日食ありければ、禁中にては兼て密の用意、却て不慮の手柄となりたり。然るに官曆に記載しあらざりしを以て、天下の人皆驚愕し、就中、江戸登城の貴賤等は騒擾一方ならざりしと云ふ。是に於て薊山が豫め此の日食を測定せし奇談は瞬く間に四方に傳播し、當時土佐川谷氏の暦學天下無双と稱せらるゝに至れり。

明和六年十月六日、薊山中風に罹り、七日六十四歳にして歿せり。

著書 改施曆，薊山集，薊山小集等あり。

前海南學校教諭寺石正路著(高知市南新町四十四番屋敷に現住)

「土佐偉人傳」一冊 定價金參圓五拾錢

昭和三年一月十日三版(僅か二頁に記載しあり)

發行所 高知市種崎町富士越書店 振替大阪20103番

昭和十年十二月二十日夜

於 高知縣安藝町

◁ ブラジル支部より珍しい贈り物 ▷

年末に近い去る十二月二十七日の朝、我がブラジル支部長神屋信一氏より木村てる子氏に託して巨嘴鳥一羽とアルマジロ一疋の珍しい標本が山本會長に届けられた。